

聖化

日本聖化交友会機関誌

No. 9

'90. 1. 30

私の救いときよめの恵み

日本宣教会久我山宣教会牧師

中原 幸 茂



新約のきよめの福音は、感謝と信仰によって直ちに自分のものとする
ことが出来る神の恩恵である。エゼ
キエルが御霊によって適切な象徴で
示しているように自分の心が「石の
心（自己中心心）のままであって
も、「主よ今、御霊によって私の内よ
り、石の心を完全にとり除き、「肉の
心（きよき愛の心）をもって満たし
給え」と、確固不動の幼児のような
信仰と感謝をもって祈るとき、私た
ちは瞬時に潔めを経験することがで
きる。

私は小学校六年生の時から教会に
出席を始めた。中学校二年生の八月
一日（この日ちょうど十四才になっ
た。）この日までに自分が犯してきた
過去のあらゆる神と人に対する罪が
思い出されて、そのため良心の呵責

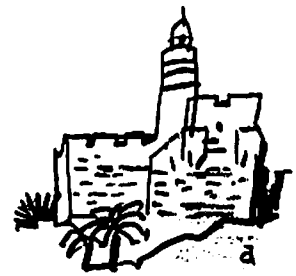
の重圧に耐えられなくなってしまう
た。そこでまず夕食の直前、両親の
前でこれまでの罪をおわびし、食後
直ちに一室に入って、神の御前に過
去の罪の告白と悔改めの祈りをした。
それは怒濤のように続いた。その時
「お前の一切の罪はゆるされた」との
声が見えたようにして信仰が与えら
れた。そのとき反射的に、「自分は今
死んだら天国なのだ」と思われ、
涙を流しながら「イエス様感謝いた
します。」と大感謝を神にささげた。
キリストに救われて新しくされた
後は、神を愛し、人々を愛し、学校
でも機会をつくって、個人伝道をし
たが、自分の心の中には主イエスの
ような、きよい心、愛の心がなかっ
た。そればかりか、表面的な罪はあ
るとは思わなかったが、聖書に「に

がき根生え出でて」とあるように他
人に対して、ねたみ、怒り、高ぶり
など、また異性に対して色慾などの
悪しき考えが、むらむらと心の中よ
り込み上げて来るのを感じたことが
少なくなかった。このことが、しば
しば、自分の救いの恵みを疑わせた。
ところが救われてから三ヶ月位経っ
たある聖日の朝のこと、礼拝のメッ
セージがまさに自分の全部を知って
いるような、自分のためのメッセー
ジであるのに驚かされ、終わるや否
や、先生の前に進み出て御言葉の光
に従って祈った。が、一つの問題は保
留して告白しなかった。間もなく新
年聖会になったとき、残る一つも御
言葉の光に従って祈り、きよめの恵
みの確信を得ることができた。
自分の犯罪、原罪の一切の呪いと
なられた主の完全な贖いの御血の中
に、感謝の心をもって、全き謙遜、
献身、信仰、服従を表わすとき、偽
ること能わず、全能にして永遠にア
ーメンなる神はこれを受入れて下さ
るのである。

歓びの泉を得よ

チャーチオブゴッド川崎南部教会牧師

伊藤昭吉



ぶどう酒がなくなつた時、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」といった

(ヨハネ二章三節)

クリスチャンの眞の姿は、潔めの経験を経た者であるといえます。その人は主と共に十字架につけられて「死」を経験し、キリストの復活に合わされて「生命」に生き、聖霊による歓びに満ちた人生を歩む者です。

歓びの泉の枯渇

「ぶどう酒がありません」

聖書では「婚宴」は特別な意味を持っています。それはメシヤ的祝福を象徴しています。(イザヤ61・10)黙示録には小羊の

婚姻という表現で願われた民の終末的な祝福を述べています。(黙示録19・7)また、ぶどう酒もメシヤの日の喜びを描くために用いられた象徴です。(アモス9・13)ですから婚宴の席でぶ

どう酒が尽きたことは霊の祝福の枯渇を意味します。もともと楽しかるべき時に歓びの泉が枯渇する、なんとむなししいことではないでしょうか。それがわたしたちの人生でなければ幸いです。

あなたの人生に歓びの泉が溢れていますか。それとも、「ぶどう酒がありません」と告白しなければならぬ人生でしょうか。預言者ハガイは「あなたがたの現状をよく考えよ。あなたがたは多くの種を蒔いたが、少ししか取りいれず、食べたが飽きたらず、飲んだが酔えず、着物を着たが暖まらない」といって民を警告しました。クリスチャン

としての中心点を失った時、何をしても人生に完全燃焼はないのです。あなたは「わたしにはぶどう酒はありません」と告白しなければならぬ人生でしょうか。

歓びの泉の噴出

「ぶどう酒になった水を味わってみた」 (9節)

しかし、神は窮した者の祈り(詩篇102・17)をお聞きくださるお方です。

イエスさまは水を芳醇なぶどう酒に変えて供されました。それは「よいぶどう酒」でした。そこには眞実の歓びの泉が湧き出しました。

イエスさまがぶどう酒に変えられた水はユダヤ人の宗教的きたりのキヨメの水でした。それは律法的な義務の水でした。クリスチャンの生涯も最初の頃

の喜びを失い、いつの間にか律法的な生活をしているのではないてでしょうか。

しかし、イエスさまは律法的な生活を恵みの人生に、歓びの人生に、勝利の人生に変えてくださるお方です。それは聖霊による溢れるばかりの歓びです。イエスさまが変えられたぶどう酒を婚宴の世話役はどこから来たのか知らなかったようにクリスチャンに与えられる歓びの泉である聖霊の満たしは「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして人の心に思い浮かんだことのないもの」(1コリント2・9)と言われる恵みです。こんなすばらしい恵みをあなたは経験しておられますか。

主が現わされた栄光

イエスは：御自分の栄光を現わされた。(11節)

主が栄光を現わされたとはどういうことでしょうか。これより前に主は母マリヤに「わたしの時は、まだ来ていません」といつつも奇跡を行なっています。主の言われる「私の時」とは奇跡を行なう時ではなく、十字架の死による贖いと復活、そして聖霊を下す時でした。この贖いのみ御業によって罪の赦しと潔めが与えられクリスチャンは内に歓びの泉を持つようになれるのです。水をぶどう酒にかえる奇跡はまさにそのような恵みの御業を示す象徴的なことでした。クリスチャンが思まれ祝福されることは主の栄光となるのです。

この恵みにいたるには第一に自分のうちに「ぶどう酒なし」と自らの霊的状态を率直に認め、そんな自分を十字架につけるとです。

第二に「キリストがわたしのうちに生きておられる」という信仰に立つこととです。

ホーリネスとは消極的には罪の深めであり、積極的には聖霊に満たされ、いのちに生きる歓びの泉を発見した生涯です。

あなたの生活の全てが主の御支配に全くゆだね、歓びに満ち溢れたものでありますように。

わたしの ペンテコステ

日本聖泉基督教會連合
川口キリスト教会牧師
中野 貞行



快い朝のひとときでいくぶん
はりつめた思いで机にむかって
いた。いつものように聖書を開
いてその日の日課であるコリン
ト人への手紙第一の四章を読み
すすんでいた。そのうちに二〇
節の「神の国はことばにはなく
力にあるのです」というみこと
ばにゆきあたった。なんども読
み通している聖句ですが、この
日はそのまま通過することはで
きなかった。魂の鼓動を感じた
のです。なんなのだろうか。引
照の聖句は同書の二章四、五節
であり、開いてみると「私のこ
とばと私の宣教とは、説得力の
ある知恵のことばによって行な

われたものではなく、御霊と御
力の現われてした。それは、あ
なたがたの持つ信仰が、人間の
知恵にささえられず、神の力に
ささえられるためでした。瞬時
新しい光が霊魂に満ちました。
聖霊のなされたみわざをことば
で表現することは困難なことだ
ですが、私のうちにあって私をさ
さえていたあるものが断ち切ら
れて、他のものが入って私をさ
さえてくださるといった印象で
した。他の言い方をすれば、あ
りふれたものですが私の信仰が
地的・肉面的なものから天的・霊
的に変えられたということでし
ょうか。断ち切ったものとは人

間の知恵で、説得力のあること
ばや教えを主観的に肯定したも
のでした。読みあさった本はお
びただしい数でした。ちなみに
明治二〇年台にメソジズムの組
織神学書が邦訳されているのを
ごぞんじですか、Mレーモンド
のものです。同じ頃にウエスレ
ーの説教集や伝記、母スザン
ナ伝やメソジスト史など、又絶
版のものは書き写したりして収
集しました。これらは一例です
がそれが自分の信仰を確認する
根拠であり、ささえてした。し
かしこの朝やつと私の信仰が神
の力にささえられるものになっ
たのです。人間の知恵に死にキ
リストにあって生きるものと変
えられました。

一層濃密になることを願ってい
ます。
第二に、この経験を経てから
信仰によって義とされ、罪を赦
して頂いたということから更に
生けるキリストに支えられて罪
に勝つ経験を積み重ねていく
ようになり、勝利の喜びを味わ
いはじめました。
第三に、この方によって毎日
に成長するのちに生きるよう
になりました。そして限りなく
キリストの姿に成長させて頂く
望みが現実となりました。勿論、
成長といっても自分自身の機能
的变化というのではありませ
ん。うちにいます方の支えを見失
たら、全く力のないもので、あ
んなに高揚された喜びがなくて
あったかと思うほど空しい自分
を感じます。「わたしを離れては、
あなたがたは何もすることがで
きないからです」ということが
心からうなずけます。
第四に、証、伝道の方法が変
えられました。何年何月に救わ
れて、深められましたと、こと
ばでする証もおろそかにできま
せんが、キリストご自身が私と
いう枝に結ばせざる実を複雑
な人間関係の中で実らせること
は更に大切で、世の人々や家
族が知りたいのは救いの教えて

は生けるキリストを見える
形であらわすキリスト者ではな
いでしょうか。福音のことばに
は力があります。人々はそのこ
とばによって捉えられます。し
かしみことばが顕わされる筈の
クリスチャンを見て、失望し、
幻滅を感じるのではないでしょ
うか。時間はかかりましようが
健全な教会の成長はこのような
キリストの証人に期待されてい
ると思います。
復活されたイエスは四〇日間
繰返し神の国とご自身の生きた
ことを弟子達に知らされました。
しかし彼らの関心はそこにはな
くイスラエルの国の回復でした。
彼らは父母、職業、いのちまで
捨て従いました。しかし自国の
回復という美名のもとに隠され
ている執拗な自我に気がつきま
せんでした。神の国が彼らの心
に來、イエスが王となられる恵
みはペンテコステを経なければ
実現されませんでした。この朝
の私の経験は宣教という人のこ
とばの美しい知恵に隠された自
我の支えを切りキリストに支え
られるためのペンテコステでし
た。



新約のきよめ

トマス・クック 著
渡辺勝弘 訳

この本は、メソジストの巡回説教者であったトマス・クックの著わした「きよめ」の良書です。日本では七十年ほど前に翻訳、出版され、私の卒業した神学校においても聖化論の教科書として用いられていました。

実に正直にこの教理を理解したいと思っている人々の困難を取り除くことは、本書の目的とすると、ところであり「きよめ」を信じていない人には当然のことですが、それを信じている人たちの間でも様々な誤解と混乱があります。著者は、それは多くの場合、本来は異質なものを区別しないで、混同しているからであると述べ、様々なことについて明確な区別をつけています。

それがこの度、時代の要請にこたえて、読みやすい翻訳で出版されたことは、聖書のきよめを標榜する者の一人として、誠に喜ばしいことであり、心から御名を崇める者です。著者は、聖書のきよめを二五章にわたって記しています。浅学非才の身で僭越ですが、この二五章は、その内容から考えて、次のような六つに分けることができると思います。

特に第一章と七章に記されている「きよめの消極的な面」については、きよめを信じていない人には当然のことですが、それを信じている人たちの間でも様々な誤解と混乱があります。著者は、それは多くの場合、本来は異質なものを区別しないで、混同しているからであると述べ、様々なことについて明確な区別をつけています。

▽第一〜七章 きよめの消極的な面
▽第八〜二章 きよめの積極的な面
▽第三〜四章 きよめの実践的な面
▽第五〜七章 きよめられた心の姿
▽第八〜九章 きよめられた人の姿
▽第三〜五章 きよめの条件と保持
トマス・クックは、きよめを「さらに詳細に説明し、それによって真

1 悪い思いと悪に関する思いの区別 (二章)
2 罪と弱さや過失の区別 (三章)
3 罪責と腐敗性の区別 (四章)
4 心の純潔と品性の成熟の区別 (六章 (六章))
5 福音的完全と成長した完全の区別 (一〇章)
6 聖霊を持つということと聖霊に満

たされるということの区別 (二章)
7 自己愛と利己心の区別 (二〇章)
この書を一章一章、順を追って、先入観や偏見を捨てて、真剣に読んでいくならば、
1 きよめられなければならない罪を示され、
2 聖書が教えているきよめを正しく理解し、
3 全き献身と信仰によってきよめを体験し、
4 きよめられた心は、どのようになるのか。
5 きよめられた人は、どのようになるのか。
6 きよめられた者は、どのように歩むのか。
7 きよめられた者が恵みに成長していくためには、どうすればよいのか、ということがはつきりとわかってきます。

最後の二五章には数名の聖徒と著者自身の証しが記されています。それは、いまままで語られてきたことが真実なものであることを裏付ける確かな証言であり、私たちの心に迫ってくるものがあります。

このように、本書はきよめの教理と体験と実践において、穩健でバランスの取れた、古典的な名著です。

総務リポート

■二十世紀も残すところ、あと十年とせまり、世界は世紀末の様相を濃くし、新しい時代への変革が見え隠れしております。「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。」と預言されたことが、現実感をもって、受け止められる現代です。

■日本聖化交友会は、すべてのキリスト者が神の聖潔に与かり、聖なる神のご臨在を宣証することを願ひ、個々の教会が「国々の光」として責任を果たされることを願っております。今年も各地で開催される聖化大会にご協力をお願いいたします。

■第五回聖化大会(十月二二日、二三日)には、主講師としてテオドール・ウィリアムズ博士(世界福音同盟議長)をお迎えすることを決定しております。ご期待ください。

